

1397

號四一二第

滿

受

大

決

裁

上

務

司

課

大

臣

房

辨

文

類

滿

草

第

一

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

〇

名二輪荷馬車敷同修正ノ件

馬

裁

裁



裁



裁



上務司 裁 六月七日
大 臣 房 裁 六月七日
大 臣 房 裁 六月八日

長 局 帶 局

裁 裁 裁 裁

裁 裁 裁 裁



閱

通謀

高級副官より第一、第二、第三、第四、鴨緑江軍砲兵部長及韓國駐副軍參謀長兼砲兵旅團長、

目下貴軍ノ一部ニ使用セラレ又將來増加

若クハ編成ノ困難ニ支給セラレハキ苦ノ二

輪輜重車代用北海道型ニ輪荷馬車々

輪ハ多数ノ需用ヲ短時日ニ充足スル為

生々乾燥充令ナラサル木材ヲ以テ製作セル

モノ有之時日ノ経過ニ伴ヒ木部ノ乾燥

ニヨリ藪筒ト藪ノ間ニ空隙ヲ生シ遂ニ藪

筒ヲ穀外、脱出セシムルノ結果ヲ来スルハキ
虞有之矣。就テ、右車輪ノ穀部ニ使
用部縁若クハ野戦ヲ畧敷ニ於テ別紙要領
及図面ニ據リ装置ヲ施サレメラレ度

進テヲ畧本敷ニ於テ今後製作スルキモノ
ニ在リテハ穀筒ノ離脱ヲ防過スルハキ装置
ヲ施ス者ニ矣向申添ハヤ

六月八日

獨立重砲兵旅団長ハ、貴軍ノ一部ヲ「貴旅
団」ト改ム。図面ハ各ヲ撰取

同官ヲ第十三才由師団參謀長、

目下貴研田ニ支給相成居矣ニ輪荷馬車
 多輪ニ多数ノ需用ヲ短時日ヲ充足スルガ
 往々乾燥充分ナラサル木材ヲ以テ製作セルモ
 ノ有マ時日ノ経過ニ付ヒ木部ノ乾燥ニ
 依リ穀筒ヲ穀外ニ脱出セルモ有マ
 是ニ就テハ談車輪ノ穀部ニ別成要領
 取回面ニ擾ノ製造ヲ施サシ度又
 追テ内地待命間亦又装置ヲ施ス所要
 費額ノ概算書ヲ添へ申請認可ヲ
 経ル義トシ兼知相成度又ニ卷本ノ致
 於テ今後製作スヘキモノニ存リテハ穀筒ノ

離脱ヲ方過スニキ表置一ヲ施ス方ニテ矣
申添也

送
送

滿發第
九一八

六月八日

別表
團面
各十
書元

陸
軍
省



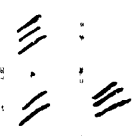
第十三師團	針	狹之重砲兵隊團	韓國駐劄軍	鴨綠江軍	第四軍	第三軍	第二軍	第一軍	配賦所	配賦所
-------	---	---------	-------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

北海道製二輪荷馬車之輪殼未機及釘裝着法

荷馬車之釘裝着法

第十師圖



1404

受
件

滿刺乾第九五九号

名ニ移テ馬車ノ敷南修正方件

閱

査

手書

七

高級



手書



決

手書

裁

手書



手書



手書



上
林
局
大
臣
房
了
結
明
其
年
方
月
三
日
大
同
三
年
閏
六
月
三
日

馬車

署
出
筆
案
校



通 條

高級副官ヲ以テ本廠長

貴廠ニ於テ製作ノ二輪荷馬車鞍筒修

正方ニ関シテ滿發第四八二八号ヲ以テ申通

牌置ニテ處該通條中既製衣及製

作中ニ属スルモノ、修正要領ニ別紙因

面ノ通ニ改正初成ニテ承知相成度

送 達 滿發第 四八二八 號

六月四日

滿

1406

件

名

二輪荷馬車穀筒修正方件

九五九

軍務局砲兵課

閱

大臣

奏

奏

決裁



主



主



主



主務局
改内字
五月廿日
五月三十日
五月廿二日

長

若



通牒

高級副官ヨリ兵器本廠長へ
 貴廠ニ於テ製作ノ輪荷馬車々輪、穀筒ヲ時
 日、経過ニ伴ヒ生起スル木部、乾燥ニ依リ韃
 外ニ離脱セシメサル為今後製作ノ分別紙
 番書ニ既製及製作中ニ屬スルモノハ別紙
 雅要領ニ依リ仕置ヲ施サレヌ様致度
 申別紙製領、技術書本部ニ
 見有テ矣

陸軍省 通牒 第四八二八號

五月三日

